

海から眺める歴史

～水中考古学の成果～



四方を海に囲まれた我が国の文化の源流は、海を介した交流、そして、常に海と向き合って暮らす中で育ちました。海と人との関係の歴史を教えてくれる直接的な証拠は海の底の遺跡にあります。近年、「水中考古学」や「水中文化遺産」という言葉を耳にする機会が増え、今まで見る機会がなかった水中遺跡の調査に期待が高まっています。本講演では、世界の水中考古学調査の歴史を振り返り、また、日本の水中考古学調査の最前線を紹介いたします。

沖縄県多良間島のファンボッセ号調査

Randy Sasaki



佐々木 蘭貞
ササキ ランディー

水中考古学者

神奈川県横浜市生まれ。子供の頃から考古学に憧れ大学・大学院は海外で学ぶ。アジアの伝統船舶、水中文化遺産の保護について研究。蒙古襲来の船の発見で有名な長崎県松浦市鷹島海底遺跡の調査に参加、またベトナムの蒙古襲来遺跡として知られるベトナム白藤江の戦い跡地の調査を指揮した。現在は九州国立博物館で水中・海事文化遺産の研究を行い、文化庁の「水中遺跡調査検討委員会」にも関わる。日本国内では、鹿児島県奄美大島倉木崎海底遺跡、沖縄県多良間島ファン・ボッセ号沈没地点、福岡県相島沖海底遺跡、千葉県御宿町サン・フランシスコ号、北海道ノ国町昇平丸座礁地点などの調査を行っている。学術論文のほか、『沈没船が教える世界史』（メディアファクトリー新書）など一般図書も執筆。

日時

2018.11.16 日 18:00～19:30 (受付 17:30より)

会場

南伊豆町役場 湯けむりホール

問合せ

特定非営利活動法人 南の風創生本部 (満満亭内)
TEL: 0558-62-1155 受付時間 9:30～15:30 (平日のみ)
〒415-0153 静岡県賀茂郡南伊豆町手石802番地

入場
無料